

国 語 科

羽場邦子・竹森文美・谷 栄次・浜岡恵子

I はじめに

人・もの・情報が活発に世界中を動き回るグローバル時代になり、現在、様々な観点から教育改革が進められている。これからの時代を生きる子どもたちに求められる資質・能力は何か、そうした資質・能力を身につけるべく教育はいかにあるべきかを明確にしていく改革の流れである。東雲小学校・中学校では、昨年度から「『グローバル時代をきりひらく資質・能力』を培う教育の創造－協働的問題解決ができる子どもの育成をめざして－」をテーマとして合同で研究を進めている。そして、「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を「さまざまな文化や価値観を理解し、多様性を認め合いながら自分の考えを明確にして問題を解決する力」ととらえ、テーマ実現に向けて次の3つを重視している。

- 主体性（課題が何かを的確に判断し、いくつかの解決方法案を考え、選択・決定する力）
- 多様性（社会の中で自分の良さを大切にし、お互いの違いを違いとして認めながら共に高め合う力）
- 協働性（様々な情報や意思、思想、態度等を正しく理解し受けとめ、さらに自分の意見を論理的に伝える双方向的なコミュニケーション力）

グローバル時代というのは、均一化・同一化になることをめざしているのではない。異なる価値観や文化をもったものどうしが柔軟な発想や相手を尊重する態度をもちながら向き合うことが、グローバル時代を生き抜く上で重要になる。

国語科では、「話す・聞く」活動に焦点をあて、東雲小学校・東雲中学校9年間の学びのつながりを考え、授業のあり方を探ることにした。国語科の「話す・聞く」領域における授業の目的は、目的や相手の意識を明確にもった上で自分の考えを適切に伝える能力や、相手の考えを聞き取り、さらに新たな考えを生み出していくコミュニケーション能力の育成にある。その過程において、異なる考えと出会い、納得したり、折り合いをつけたり、説得したりすることが求められる。このことは、先に述べた「異なる価値観や文化をもったものどうしが柔軟な発想や相手を尊重する態度をもちながら向き合うこと」につながるものである。資質や能力を直接的な指導により身につけるという考え方ではなく、一人ひとりが思考し、相互作用としてコミュニケーションする活動が自ずと生ずる課題を設定したり、場を作ったりする教師の支援を大切にしたい。つまり、子どもたちにとって必然性のある問題に対して解決しようと話し合う、切実感のある課題に対して互いに自由な考えを述べ合い、考えを深め合う、そうした過程の中で、異なる考え方と出会い、柔軟な発想や相手を尊重する態度を身につけ、互いに高まり合っていく。このことがまさに「グローバル時代をきりひらく資質・能力」と国語科でつけたい力の結節点になると考えている。

昨年度は、「友だちのことを紹介しよう」、「聞き方名人になろう」、「我が母校我が一首を作ろう」、「後輩への修学旅行の Task 案を作ろう」等、協働的問題解決の授業を実践した。また、「話す・聞く」目標や内容を整理して教材を作成し、その実践において子どもたちの学習への意識の変容を明らかにすることができた。本年度は、協働的問題解決をめざす「話す・聞く」の授業を継続して行い、協働的問題解決が実現する授業デザインの視点を明らかにしていきたい。

Ⅱ 本年度の研究計画

1 研究の目的

国語科では、研究テーマを次のように設定した。

国語科の研究テーマ

東雲小学校・東雲中学校9年間の学びがつながる「話す・聞く」の授業づくりⅡ
 —異なる考えを受け入れ、共に高まり合う協働的問題解決の実現をめざして—

「話す・聞く」能力は、目標の焦点化を図り、実際に「話す・聞く」活動を繰り返し経験することを通して身につけていくものである。異なる考え方と出会い、柔軟な発想や相手を尊重する態度を身につけ、協働的問題解決をめざして互いに高まり合っていく「話す・聞く」活動を実現する授業デザインの視点を見出すことを目的とする。

2 研究の方法

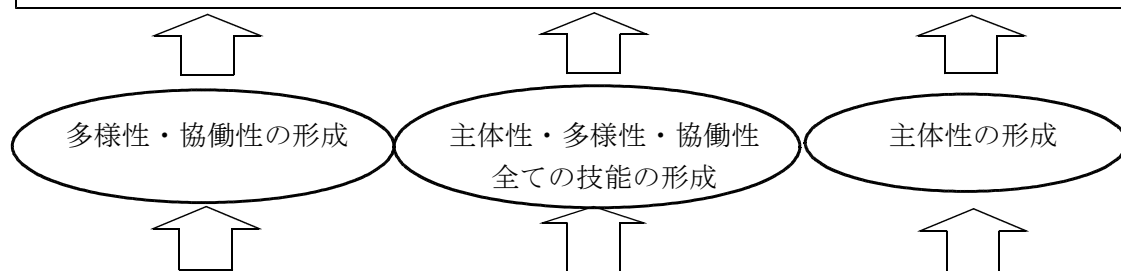
- 各段階の「話す・聞く」の目標、及び内容を整理し、学習指導要領をもとにめざす生徒像と学習目標について考察し、主体性・多様性・協働性を基軸にした小学校・中学校9年間の学びの系統性を見直し、検討する。
- 授業実践を通して「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う「話す・聞く」授業について、その成果と課題をまとめ、さらなる知見を得る。
- 協働的問題解決をめざして互いに高まり合っていく「話す・聞く」活動を実現する授業デザインの視点を明らかにする。

(1) めざす生徒像と各段階における目標

本校では、児童・生徒の発達段階、学び方、わかり方の進行に着目して、Ⅰ期（小1年生～4年生）、Ⅱ期（小5年生～中1年生）、Ⅲ期（中2年生・3年生）という段階を設けている。中学卒業時のめざす生徒像と各段階における学習目標を次に示す。

Ⅲ期でめざす生徒像

目的や相手、場や状況に応じて、自分の考えを適切に伝えたり、相手を尊重しながら新たな考えを創り出したりして、共に高まり合おうとする生徒



	価値目標	技能目標	態度目標（基盤）
Ⅲ期	【協働的に社会を形成する】 教材の内容と結びつく 抽象的な価値観 真実・個性・美 正義・誇りなど	3-1 妥当性や欠落点を考えながら聞く 3-2 発言について価値づけし、評価する 3-3 目的に向かっての合意点を見つけ伝える 3-4 話し合いを深めるルールを作る	【批判・建設的態度】 ・対等な関係を築く ・小さな違いに気づく ・考えを吟味し、共有する楽しさの実感する
Ⅱ		2-1 立場や意図を明確にして話す 2-2 経験や知識、情報を関連づけながらイメージをふくらませて聞く	【創造的態度】 ・思いや意図をくみ取る ・考えを関連づける

期	<p>【異なる価値観と向き合い対話する】</p>	<p>2-3 足りない部分を押し量りながら聞く 2-4 話し合いの方法について考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉をイメージする ・ルールの共有化を図る ・考えを広げたり深めたりする <p>楽しさを実感する</p>
I期	<p>教材の内容と結びつく 具体的な価値観 命・自然・家族 友だちなど</p> <p>【多様な価値があることに気づく】</p>	<p>1-5 理由や事例などを挙げて筋道を立てて話す 1-6 共通点や相違点を考え、進行に沿って話し合う 1-7 話の中心に気をつけて聞く 1-8 質問に答えたり感想を伝えたりする</p> <p>-----</p> <p>1-1 経験したことを自分の言葉で話す 1-2 順序に気をつけて話す 1-3 大事なことを聞き取る 1-4 話題に沿って話し合う</p>	<p>【受容的態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由や根拠を重視する ・反応を返す ・最後まで受け止める <p>・考えを伝える、聞く楽しさを実感する</p>

「グローバル時代を生き抜く資質・能力」として国語科では、異なる考え方と出合い、柔軟な発想や相手を尊重する態度を身につけていくことの大切さを述べてきた。ここでは、国語科の学力（基盤となる態度目標、技能目標、価値目標の3つの領域でとらえる）と結びつけて、具体的に考えていくことにする。

まず最初に、基盤となる態度目標について述べる。「話す・聞く」活動は、他教科・他領域など、学校生活のあらゆる場で行われている。すべての学び、生活に関わるものが基盤としての態度目標にあたる。I期では、受容的な態度でしっかり相手と向き合うことを大切に考えたい。まず相手の言っていることや思っていることを受け入れる姿勢をもつことが双方向的なコミュニケーションづくりには欠かせないものとなる。途中で口を挟むことにより相手の意志を遮ったり、思い込みによる勝手な決めつけをしたりせずに、最後まで聞き入れる、正確に聞き取ることが重要になる。その上で、何らかの反応を返すことで、安心感のある関係づくりをめざしたい。また、こうした「話す・聞く」活動を日々繰り返すことで、話す行為・聞く行為そのものの楽しさを実感させたい。II期では、お互いの考えを関連づけたり、具体的なイメージを描きながら聞いたりして相手と共有することで、考えを広げたり深めたりする楽しさを実感させたい。言葉だけで理解するのではなく、立場やそれまでの流れ、仕草や表情などを含めて相手の伝えたいことを創造的にとらえるようにしたい。III期では、対等の立場で考えを出し合い、微妙なニュアンスの違いや言葉遣いに目を向けながら相手の考えを吟味し、共有する楽しさを実感させたい。建設的な話し合いが自分たちの力で進めるできることをめざしたい。態度目標は「主体性」の形成に大きく関わるものとしてとらえている。

次に、技能目標について述べる。これは、「話す・聞く」活動を行うために必要となる技能を示したもので、学習指導要領をもとにI期・II期・III期のそれぞれの段階において重点的指導事項として考えている。1-1, 1-2, 1-3, 1-4はI期でも前半（小学校1・2年生）で身につけさせたい技能である。I期前半での学習を土台としてI期後半（小学校3・4年生）で1-5, 1-6, 1-7, 1-8の目標に向けて学習を積み重ねていきたい。II期・III期も同様に、II期の技能目標はI期の学習を土台に、III期の技能目標はI期とII期の学習を土台にして、スパイラルに高まっていくよう、一人ひとりが繰

り返し「話す・聞く」活動を実際に行うことを通して、身につけていきたい技能である。技能目標は「主体性」「多様性」「協働性」の全てに関わるものとしてとらえている。

最後に、価値目標について述べる。「話す・聞く」活動において、最も重要になるのは「話してよかった」「聞いてよかった」「話し合っただけよかった」という楽しさを実感できることである。その楽しさの実感が次への意欲にもつながり、仲間や社会をつくっていくことにもつながる。楽しさを実感するためには、「話す・聞く」活動の意義や意味を見出すことが必要になる。Ⅰ期では、考えを「伝える」、「聞く」楽しさを十分に感じることを経験させたい。生活と結びついた具体的な話題について、自分とは異なる様々な考え、感じ方、とらえ方にふれることを大切にしたい。Ⅱ期では、友だちの考えを聞き入れ、聞き取りながら、自分の考えが変容したり、新たな気づきが生まれたりする楽しさを自覚させたい。Ⅲ期では、多様な考え方の一つ一つを吟味しながら自分たちの力で明らかにしたこと、解決したことなど、学びの成果を共有することの価値、その喜びを経験させたい。学年が上がると、より抽象的なもの・ことが話題となり、こうした価値目標は「多様性」「協働性」の形成に大きく影響し、目的を意識した「共同体をつくること」につながるものとしてとらえている。

こうした考えを踏まえて、国語科の授業を含めたあらゆる場で培ってきた態度を土台にしながら、技能目標を明確にした授業、協働的な学びの中で価値を見出す授業を行うことで、めざす生徒像を実現したい。

(2) 主体性・多様性・協働性を基軸にした授業づくり

ここでは、国語科のサブテーマ「異なる考えを受け入れ、共に高め合う協働的問題解決の実現をめざして」のとらえについて整理する。

子どもたちにとって切実感のある、あるいは意味ある課題に協力して解決することができたという実感がもてるような単元を構想したい。一単位時間の課題設定の場においても、考えざるをえない、自然と場面に引き込まれ思わず考え込んでしまうような文脈を仕組み、工夫する。その際、子どもたちの中に「問い」が芽生え、しっかりと根づくことが特に重要になってくる。これが、問題解決的な学習における出発点となり、後に続く学習への主体性を生み出す原動力となっていく。

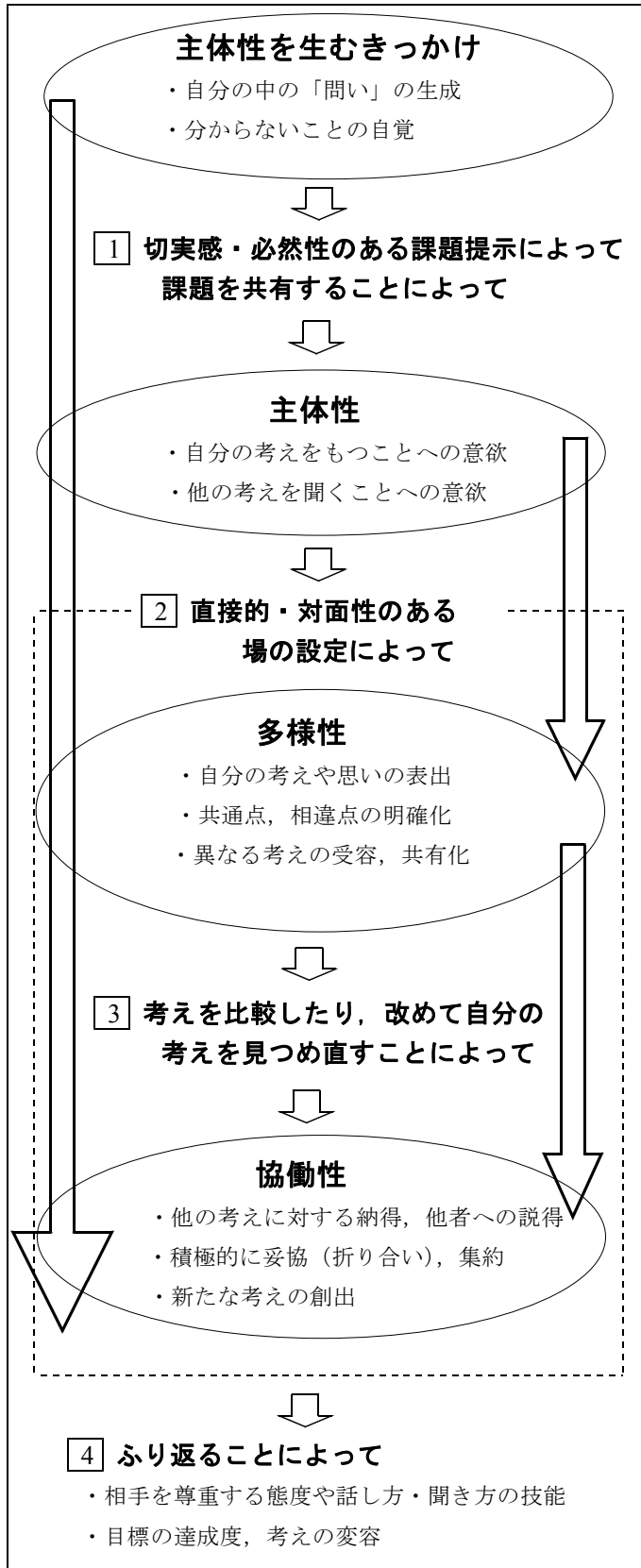
学習に対する構えが主体的なものになれば、目的を見定め、目的を達成させようと進んで考えたり、他への働きかけが積極的になったりする。「ここが知りたい」、「ここがはっきりしない」ことが明確になれば、学ぶ意義や意味も感じられるものとなる。また、日常のあらゆる場面において積極的に自分の考えを言う、聞いてもらえるという支持的風土が基盤としてできているかどうかが大切になってくる。

直接的に、対面的に相手と向き合い互いの考えを交流し合う場面では、異なる考えどうしを戦わせるのではなく、歩み寄るためのものとしてとらえさせたい。そうすることで多様性を容認する、相手の考えを尊重する態度は培われていく。異なる考えを受け入れ、理解してこそ、自分の考えを深める、広げることにつながっていく。時には納得できるまで訊ねたり、説得したり、折り合いをつけてまとめたり、考えを持ち寄って集約したりすることを通して生まれる認識の深化・拡充こそが集団での学びの価値となる。

また、協働的な問題解決の場では、「聴く」「訊く」ことが欠かせない。「ちがひ」「ずれ」を前向きにとらえ、素直に自分の考えを表出し合える人間関係ができれば、協働的な学習への構えがより主体的なものになるだろう。

(3) 「話す・聞く」ことを重視した授業デザインの視点

協働的問題解決をめざす「話す・聞く」の授業デザインの視点を次に示す。



教師の支援・働きかけ

1 の段階

- 子どもたちの実態を知る。
- 学習への期待感がふくらむような声かけをする。
- 子どもたちの興味・関心, 必要性和つなげる。
- 課題の意義や意味を全体で共有する。
- できるだけ複数の考えを挙げて, 自分の考えを整理するように指導する。そのための時間を十分確保する。

2 3 の段階

- 目的に応じてペア・グループ・全体など様々な形態を考えて取り入れる。
- ゴールのイメージを明確にもつようにしておく。
- わからない, 曖昧な考え, 途中までの考え等も含めて自分の考えを必ず自分の言葉で話すようにする。
- どんな考えも最後までよく聞き, 一端受け止めるようにする。
- 自分の考えと比べながら他の考えを聞くようにする。
- 「同じ」「似ている」「違う」など自分の立場を明確にする前置きをして発言するように指導する。
- 共通点や論点を明確にして深める話し合いを進めるように促す。
- 他の考えをメモしたり, 話し合ったことを整理してまとめたりするなど書く活動と連動させる。
- 全体の場で話し合いの結果を報告し合い, その成果や新たな問題を共有するようにする。

4 の段階

- 考えの変容, その根拠や理由を具体的な発言と関連づけるようにする。
- 必要に応じて映像や文字記録などを提示する。

3 研究会当日の授業 (が本時)

(1) I 期 (小学校 1 年生)

活動目標：ようごてい学年のともだちをしょうかいしよう		
活動内容	話す・聞く技能目標	教師の支援・働きかけ
1. インタビューする。	・養護低学年児童に一人ずつインタビューする。(技能目標 1-3)	・養護低学年担任にインタビューの内容を相談する場を設定する。
2. 紹介メモを作り練習する。	・話す順序を考えメモを作り、練習する。(技能目標 1-2)	・メモを読むのではなく相手を見て話すことを助言する。
3. 紹介を聞き合う。	・グループで互いに聞き合い、感想や質問をする。(技能目標 1-3)	・「話し手、聞き手、評価者」を設定し活動しやすくする。

(2) I 期 (小学校 2 年生)

活動目標：ようごてい学年の友だちとあそぼう		
活動内容	話す・聞く技能目標	教師の支援・働きかけ
1. 遊びを決める。	・遊びの候補から遊びを話し合って決める。(技能目標 1-4)	・養護低学年に遊びの相談をする場を設定する。
2. 遊び方を話し合う。	・一緒に楽しむことができる遊び方を話し合う。(技能目標 1-4)	・「司会、記録」を決めて、考えを伝え合うようにする。
3. 遊びや遊び方を説明する。	・協力して実際に遊びをしながら順序よく説明する。(技能目標 1-2)	・質問する場を設定し説明を修正できるようにする。

(3) I 期 (小学校 3 年生)

活動目標：話そう「モチモチの木」		
活動内容	話す・聞く技能目標	教師の支援・働きかけ
1. 作品を読んで自分の考えをもつ。		
2. 話し合いの中で納得のいく意見をみつける。	・理由や根拠を挙げながら、相手に分かりやすく話す。(技能目標 I-5)	・分からない内容は、質問したり答えたりするように助言する。
3. 話し合いを振り返る。		

(4) I 期 (小学校 4 年生)

活動目標：話そう「ごんぎつね」		
活動内容	話す・聞く技能目標	教師の支援・働きかけ
1. 作品を読んで考えたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを理由や事例などを挙げて筋道を立てて話す。(技能目標 I-5) 話し手が一番伝えたいことを考えながら聞く。(技能目標 I-7) 	<ul style="list-style-type: none"> 話し手，聞き手を大事にした態度になっているかを確認する場をつくる。
2. 意見が深まる話し合いをする。	<ul style="list-style-type: none"> 共通点や相違点を整理しながら話し合う。(技能目標 I-6) 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を整理することから考えたことを話したり聞いたりするように助言する。
3. 話し合いを振り返る。		

(5) II 期 (小学校 5 年生)

活動目標：1年生におすすめの「絵本」を紹介しよう		
活動内容	話す・聞く技能目標	教師の支援・働きかけ
1. 「チャンプ絵本決定戦」の目的と方法を理解し，準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> 理由や事例などを挙げて筋道を立てて話す。(技能目標 1-5) 立場や意図を明確にして話す。(技能目標 2-1) 話し合いの方法について考える(技能目標 2-4) 	<ul style="list-style-type: none"> おすすめの絵本を紹介するには，どのような観点がよいかを考え，話し合う場を設けるようにする。 本選びの時間を保障し，キーワードだけの構成メモを作り，練習し，構成メモを練り直すようにする。
2. グループごとに「チャンプ絵本決定戦」を開く。	<ul style="list-style-type: none"> 立場や意図を明確にして話す。(技能目標 2-1) 発言について価値づけし，評価する。(技能目標 3-2) 	<ul style="list-style-type: none"> ルールを守って自分たちで「決定戦」を進めるようにする。 事前に評価の観点を明確にする場を設けるようにする。
3. グループ代表の紹介をもっとよくするための話し合いを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 発言について価値づけし，評価する。(技能目標 3-2) 	<ul style="list-style-type: none"> グループの代表という意識を高めるために，もっとよくするためにどうすればよいかをグループで具体的に話し合うようにする。
4. 学級全体で「チャンプ絵本決定戦」を開く。	<ul style="list-style-type: none"> 立場や意図を明確にして話す。(技能目標 2-1) 発言について価値づけし，評価する。(技能目標 3-2) 	<ul style="list-style-type: none"> 聞く観点を共有し，特に1年生にとってどうかを意識し，代表者の発表を聞くようにする。 グループで，がんばりやよさ，さらなる課題をグループで話し合うことで活動を振り返るようにする。

(6) II期 (中学校1年生)

活動目標：話し合いで解決しよう		
活動内容	話す・聞く技能目標	教師の支援・働きかけ
1. 「良い話し合い」とはどのような話し合いか考える。 2. 互いの話し合いの様子を観察する。	・話し合いの方法について考える。(技能目標2-4)	・これまでの話し合いの経験を想起させ、めざすべき「良い話し合い」のイメージをクラスで共有させる。 ・実際の話し合いの場面において、自分がどのような役割(発言の回数や他者へのはたらきかけ等)をしているか意識できるようにする。
3. 詩に当てはまる言葉を考える。〔個人・班〕	・立場や意図を明確にして話す。(技能目標2-1) ・経験や知識、情報を関連づけながらイメージをふくらませて聞く。(技能目標2-2)	・詩の構成に注目させる。 ・正解を出せたかということよりも、なぜその言葉を選んだのかという理由を大切に伝える。 ・班活動の途中で第1連に当てはまる言葉を知らせ、話し合いの方向を修正できるようにする。

【参考文献】

- 文部科学省、『小学校学習指導要領解説 国語編』, 2008.
 文部科学省、『中学校学習指導要領解説 国語編』, 2008.
 位藤紀美子著、『言語コミュニケーション能力を育てる』, 世界思想社, 2014.
 杉江修治著、『協同学習入門 基本の理解と51の工夫』, 2011.
 森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一著、『新訂 国語科教育学の基礎』, 溪水社, 2010.
 難波博孝・福山市立湯田小学校, 『イメージの形成と共有によるコミュニケーションの授業づくり』, 明治図書, 2007.
 全国大学国語教育学会編, 『国語科教育学研究の成果と展望』, 明治図書, 2002.
 村松賢一著, 『対話能力を育む 話すこと・聞くことの学習－理論と実践－』, 明治図書, 2001.
 高橋俊三著, 『国語科話し合い指導の改革－グループ討議からパネル討論まで－』, 明治図書, 2001.
 山本名嘉子著, 『国語科授業研究の方法と課題』, 溪水社, 2000.
 鹿毛雅治・奈須正裕編, 『学ぶこと教えること』, 金子書房, 1997.